# 東京 枝肉市況 大阪

## 弱もちあい推移か
### 需要活性化の要因ない

【東京都食肉市場】（2月21～27日）

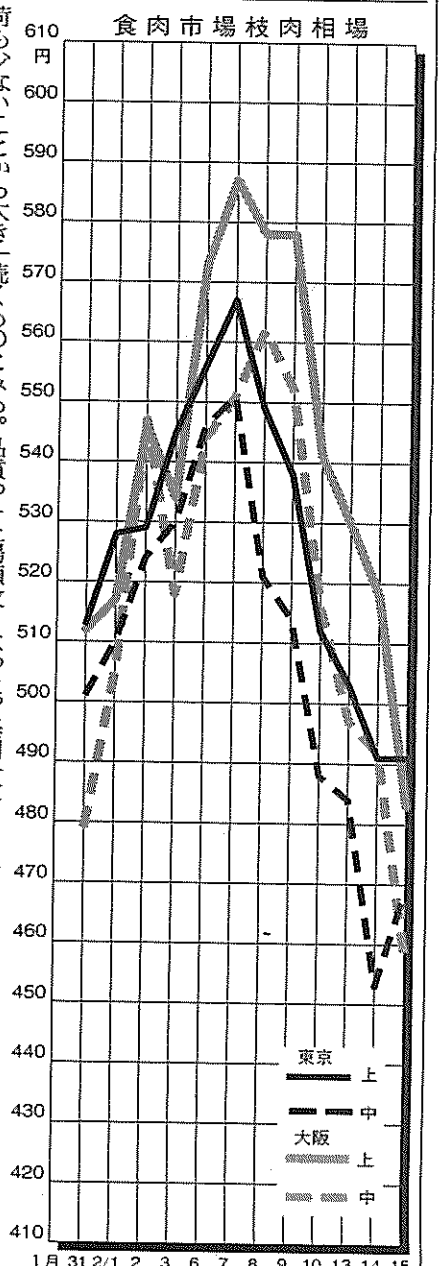
豚　前週は、全国と畜頭数が引き続き6万5千頭前後で、決して多くはなかった。しかし、端境期で消費が鈍いことから全体的に荷動きは弱まっており、500円を割り込む価格が続いた。

輸入豚肉の通関遅れや受験シーズンのカツ需要なども一部ではみられるが、鍋物需要で引き合いの強いバラ系も来月には荷動きが鈍りそうで、行楽需要が見込まれる来月中旬以降までは相場を大きく押し上げる要素は見当たらない。

今週も400円台後半の弱もちあいか。

### 依然として、品質格差が大

牛　和牛3、4等級、交雑牛を中心に量販店需要の落ち込みを受け、弱気配。全国と畜頭数は4千頭を切る日が多く、出荷も少ないことから大きな下げはないが、卸では月末に向け在庫が絞られるため、今後も弱気配が続くものとみる。品質や仕上がりの良しあしによる引き合いと価格の格差は依然大きい。




## 牛は底堅い展開か
### 豚月末へ向け弱基調に

【大阪市食肉卸売市場】

牛　と畜頭数が減少傾向にある中で、前週も日によってバラツキのある上場頭数となった。基調としては全国的に閑散期ということもあって、弱もちあいでの推移となっている中で、関東圏に比べると関西は高値を維持し、頭数の少なさ、需要の底堅さが感じられる相場となっている。

また、個体差で価格も大きく異なっているため、ますます末端のニーズに合った肉牛生産が求められそうだ。とくに末端では質の良い5等級が求められており、そういった牛は値段もとりわけ高い。今週も引き続き、頭数にかかわらず底堅い相場となるだろう。

豚　2月上旬は年末からの通関遅れや天候不良の影響もあって高値で推移したが、前週あたりから徐々に基調は弱まっている。今週も同様の弱基調で推移するとみられ、このまま月末にかけて緩やかに相場は下落しそうだ。

# 北欧で初の和牛プロモ開催

## 将来の需要増期待
### セミナー試食行う　畜産物輸出促進協

日本畜産物輸出促進協議会・牛肉輸出促進部会はこのほど、スウェーデン、デンマークの北欧2カ国で和牛のプロモーションを行った。同協議会が北欧でプロモーションを行うのは初めて。北欧はヨーロッパの中でも給与水準が高く社会福祉が充実しており、食に対するこだわりやブランド意識が強いため、将来的に和牛の需要が強まることが期待される市場だ。

スウェーデンではストックホルムのキッチンスタジアム「Swedish Taste Stockholm」で行われた。プロモーションの参加事業者・団体はエスフーズ、ミートコンパニオン、全農インターナショナル欧州、Anzco EU、NH Foods UK、全国肉牛事業協同組合、農畜産業振興機構、日本貿易振興機構、フューチャーブレイン、さらに事務局として日本畜産物輸出促進協議会で構成された。

開会にあたって日本畜産物輸出促進協議会の菱沼毅理事長は「WAGYU」の「WA」は和を意味し日本を表しており、「GYU」は牛を表し、日本固有のものであると強調。「本物の和牛をみて食べて体感してほしい」とあいさつした。

セミナーでは、菱沼理事長が和牛の特徴と生産状況の解説を行い、全国肉牛事業協同組合の中林正悦副理事長が「生産者のお話」と題し、和牛の飼い方について説明を行った。

さらにミートコンパニオンの植村光一郎常務が和牛の肉質と脂の特徴、成分、融点、和牛香について説明を行い、和牛のカッティングデモを行った。プレゼンの合間にはランプ、イチボ、シンタマのカルパッチョ、さらにサーロイン、カタロース・ザブトン、ランプのステーキの試食アンケートが行われた。

そのあとはネットワーキングとなり、それぞれの事業者により商流や価格を含めた商談会、さらに和牛肉を使用したバラエティーに富んだ料理の試食も行われた。料理はローストビーフ、カルパッチョ、すき焼き、和牛バーガー、和牛のスウェーデン風シチュー、あぶりすしなどがビュッフェスタイルで提供され、どれも人気を博した。

植村常務は「今回ほど多くの質問があげられたことはなかった。和牛に対する興味があり、和牛のマーブリングや脂肪の融点について高い認識と優位性を感じていただけた。多様な部位の特徴とそれを実際に食べ、体感してもらえたことで、多くの和牛ファンをつくれたことが非常にうれしい」と話していた。

続いてデンマークでは、コペンハーゲンの2会場で和牛のプロモーションが行われた。参加事業者・団体はスターゼンインターナショナル、スターゼンヨーロッパ、ミートコンパニオン、全国肉牛事業協同組合、全農インターナショナル欧州、NH Foods UK、農畜産業振興機構、日本貿易振興機構、事務局として日本畜産物輸出促進協議会で構成。

1日目はキッチンスタジオ「Hotel-og Restaurantskolen」で、コペンハーゲン近郊のレストラン関係者と食肉流通・小売事業者を対象に、多様な部位の活用に向けた和牛アカデミー講座と試食会が行われた。

講演ではスウェーデンと同様、日本畜産物輸出促進協議会の菱沼理事長、全国肉牛事業協同組合の中林副理事長の講演、さらにミートコンパニオンの植村常務が和牛のプレゼンとすき焼き用のカッティングデモを行った。

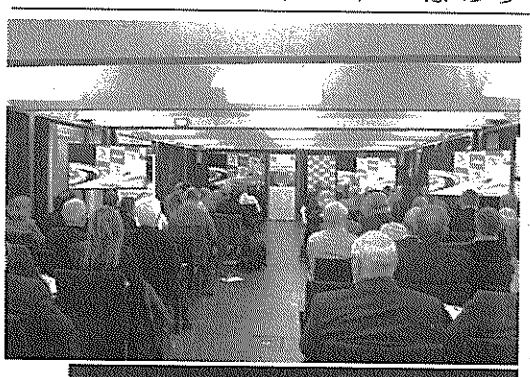
会場からは和牛の餌についての質問があり、中林副理事長が穀類、糟糠類と粗飼料の配合割合と給与方法を説明。

2日目はアドミラルホテルで開催され、政府系農業団体、農業・畜産関係団体、畜産関係企業などを招き、和牛のプロモーションと「日デンマーク外交関係樹立150周年」記念を祝う会も行われた。

厳かで華やいだ雰囲気の中、菱沼理事長が和牛肉を紹介するあいさつを述べ、さらに鈴木敏朗駐デンマーク大使が祝辞。そのあと、菱沼理事長、中林副理事長、植村常務が和牛の生産状況、飼養管理、肉質の優位性を分かりやすく説明した。

さらにすき焼きとごはん、肉じゃが、ローストビーフ、ミニ和牛バーガー、和牛タコス、あぶりすしなどが試食コーナーで提供され、和牛肉の優位性や生産方法について、参加者と多くの意見交換が行われた。

市場調査も行った植村常務は「デンマークは欧州の中でも外食にかける金額が高く、和牛肉についても日本食レストランはもちろん、ステーキハウスや現地レストランでも使用されており、今回のプロモーションでは肉質の優位性、とくに脂肪の融点の低さに興味が集中した。販売活性化に向け精進したい」と述べた。



㊤会場では和牛に関する講演が行われた
㊦両国でカッティングデモを行った植村常務

# 国際的なGAP必要
## 衆議院農水委　オリパラ食材調達

衆議院の農林水産委員会が2月15日に開かれ、2020年東京オリンピック・パラリンピック（以下オリパラ）を見据えてGAP（農業生産工程管理）、国際認証について質疑が行われた。

委員会で自民党の小泉進次郎議員は来月、オリパラの食の調達の基準が決まるが、GAPなどの国際認証が必要不可欠かと質問。これに対し田野瀬太道内閣府大臣政務官は「オリパラの大会で、直近の大会、ロンドン大会でも、持続可能性に配慮されたものを調達するということになっていた」

「食品安全、環境保全の観点から、国際的に通用する水準の認証が食材調達基準でそれぞれ採用されている。農産物については、グローバルGAPなどが基準案に位置付けられるものと承知している」と答弁した。

関連して小泉議員は、日本国内でこれまでGAPなどの国際認証はなぜ進んでこなかったのかと質問。これに対し農林水産省の枝元真徹生産局長は「これまで国産の農産物の大半が国内向けに流通する中で、国内の流通関係者からもGAPの認証取得が求められてこなかった」

「日本の農産物輸出の主な国である香港、台湾、東南アジアでGAPの普及が進んでおらず、輸出に際してもGAP認証が求められることが少なかったことから、GAP認証コストに見合ったメリットを生産者が認識してこなかったとがあげられる」と説明。

総括として小泉議員は3年後にオリパラを控え、どれだけGAPを増やしていくのか、具体的な数字目標はあるのかと質問。

これに対し齋藤健農林水産副大臣は「オリパラでたとえば穀類、野菜がどのくらい必要か、供給の量について、いま検討されていて、夏ごろにはその必要量が具体的に出てくるときいている。それが明らかになった時点で、われわれのほうも目標

## 条文案を提示し説明
### 農林部会合同会議　農業競争力支援法
自民党

自民党の農林部会などの合同会議が2月2日、党内で開かれ、通常国会に提出される「農業競争力支援法案」の条文案が提示された。条文案では目的について、良質かつ低廉な農業資材の供給および農産物流通などの合理化の実現を図ることが重要であるとし、国の責務および国が講ずべき施策などを定めている。

それとともに、事業再編または事業参入を促進するための措置を講ずることなどに伴い、農業者による農業の競争力の強化の取り組みを支援し、農業および農業生産関連事業の発展に寄与することとしている。

西川公也農林・食料戦略調査会長は「国会提出は3月10日前後になるかと思うが、その前に成案を得ていきたい」と語った。